



# 「北部まちづくり方針案」にあなたの要望は入っていますか？ パブリックコメント(意見募集)は、2月13日まで実施中

「川西市北部地域のまちづくり方針(案)」に対する市民意見を聞くパブリックコメントがはじまっています。(2月13日火曜日まで)。陽明・緑台、牧の台、東谷、北陵の各コミュニティ地域を北部と位置づけたまちづくり方針です。みなさんの願いが反映されているでしょうか。

## 「求められる機能」への対応は 低下した北部医療の再構築を

方針案は5章で構成。「北部地域に求められる機能」として、ワークシヨップで出た意見233項目を整理し、「出産から育児までの身近なケア」「医療や生活相談の拠り所」「多世代交流拠点」など5点にまとめています。

具体的には「産婦人科など医療施設」「夜間診療が可能な診療所」「総合医療センターへの直通バス」「図書館・フリースクール」「スポーツジム・プール」などが上がっていますが、方針案には解決の方向は残念ながら盛り込まれていません。

## 北と多田の消防署統合

住民の意見とは別に、東谷公民館横の北消防署と平野・西友前の北消防署多田出張所を統合し、西睦野に新北消防署を建設する計画が入っています。

統合によって職員数や救急、消防車両などの整理を行うおうとしています。

消防署は市民のいのち綱です。大きな自然災害が予想され、コロナ感染症の拡大や医療の逼迫・崩壊も経験したいま、救急・消防機能の拡大こそ必要です。

(案)では、それぞれ消防署の跡地利用の内容が記されていますが、北消防署横の東谷公民館や行政センターの見直し、東谷幼稚園の廃園などの方向性を危惧しています。

情報提供と説明責任、内部での意見調整、市民への周知の仕方など、ルールに沿った運営が重要です。

中学校への自転車通学や部活動の地域移行の方向も、市のやりたい方向の意見だけを聞き、心配の声や都合の悪い意見は受け止めようとしない傾向を危惧しています。

「誰ひとり取り残さない」という言葉通り、ひとり一人の育ちの環境を整備こそ行うべきです。

近隣他市町での通学・通園費補助、通園・通学バスの運行も川西市では実施されません。こどもの医療費無償化はぜひ進みましたが、給食費の無償化や保育料の無料化など兵庫県下でも格差が広がっています。高齢者の交通費補助も同じです。税金は、市民のために使うという当たり前を前へ進めていく声を一緒にあげましょう。

子ども一人ひとりの発達保障、保護者や地域の安心・安全の保育教育施設としての役割、あそび・体験の確保・保障が求められている。豊かな保育教育環境を整えていくことが、自治体や国に求められています。さらなる改善を求めて前進させていく2024年にしていきたいと思います。



年の瀬が押し迫った12月29日、毎週金曜日に行われている神戸・関電前「原発ゼロ」集会に参加♪ちょうど600回目の記念ということで160人が参加♪集会の後「原発なくても電気は足りてる」「あなたも私も脱原発」などコールしながらパレード♪三宮駅前まで歩きました・・・まさか、元旦に、あんな大きな地震が起こるとは思ってもいませんでしたが、改めて、原発銀座と呼ばれる福井県と石川県、新潟県の前原の状況を見れば、「再稼働なんてもってのほか、廃炉しかない」と痛感しています。声をあげ、行動を続けましょう。2011年3月11日に起こった東日本大震災から13年、壊れた原子炉はそのまま。忘れてはなりません！

## 突然、「給食費値上げ」通知 目立つ教育委員会の独断専行

市教育委員会は、3学期はじまつてすぐに「小中学校給食費の値上げ」を保護者に伝えました。保護者の方からの訴えに驚き、確認したところ、「改定(値上げ)することとなりました」という文面でした。

小学校・特別支援学校は1食250円を276円に26円の値上げ、中学校は1食290円を311円に21円の値上げです。

現在市では、公会計になり、給食基金を積んでいます。議会への説明・資料配布もなく、値上げ通知を保護者に伝え、既成事実を作るやり方は納得できません。(後日配布されました)

この間の「ふりかけ持参」の時も生徒の意見だからと現場の声を聴かず実施されました。

## 切実な声・運動の成果

### 76年ぶちに保育士配置基準を見直し 30:1から25:1へ 課題は保育士の処遇改善と職員確保

2023年12月22日、「こども未来戦略～次元の異なる少子化対策の実現に向けて～」の中で、長年、現場・保護者・地域の切実な声と粘り強い運動で求め続けていた保育士配置基準の見直しが明らかになりました。

保育士の配置は、4・5歳児の場合、現行こども30人に1人ですが、2024度から、こども25人に1人となります。76年ぶりの改定です。

ただし、「当分の間は従前通りの基準により運営することも妨げない」という経過措置が設けられ、本当に実現できるか注視する必要があります。

また、職員不足も深刻で、公立・私立とも保育士確保のための処遇改善や労働環境の改善が早急に必要です。

### 基準通りは2園のみ

川西市では、2023年12月1日現在の待機児童(国基準)は154人、保留児童は120人となっています。(表1)

市内には川西南、小戸、川西中央、多田の4つの保育所と4認定こども園(加茂、川西、川西北、牧の台みどり)があります。クラス担任は正規職員93人ですが、週休対応などの加配職員として、59人の会計年

度任用職員が配置されています。しかし、11月現在で職員配置の基準を満たしているのは1保育所、1こども園のみ。残りは配置基準以下、職員9人が不足しています。

「私立」8割、「市立」の役割は 市は、市立幼稚園と保育所を統廃合・認定こども園化し、「保育サービスは民間活力を導入、市立園は拠点施設としての役割を果たす」方針です。

市立園は、5認定こども園、2保育所への統廃合の計画で、多田幼稚園と多田保育所は統廃合で市立こども園化ですが、久代幼稚園と川西南保育所では、統廃合や民間化が進められようとしています。

市立の幼稚園と保育所がない中学校区が増え、現在、57ヶ所ある就学前保育教育施設の約8割は私立園。さらに拡大する方針です。

保育の質の向上といいながら、認定こども園化や大規模園化によって、案じられていた、1号認定児と2号認定児の保育内容の統一化や子育ての見通しがもてるような行事設定が難しくなっている状況が見えはじめています。

2023年度		4月	12月
待機児童	0歳児	0	93
	1歳児	0	40
	2歳児	0	13
	3歳児	0	8
	4歳児	0	0
	5歳児	0	0
	合計	0	154
保留児童	0歳児	4	3
	1歳児	87	76
	2歳児	18	17
	3歳児	23	20
	4歳児	3	2
	5歳児	3	2
	合計	138	120

川西市保育所待機児童数